

互いに切磋琢磨して、 技術を創造する研究室

今に至る先生のエピソードを教えてください

高校時代は、いくつかの進路を考えていました。生物系の免疫システムを勉強しているとき、あまりに機械的でよくできているので、これを何かに応用できないかと考えていました。また高校入学時に PC-9801 というパソコンを購入して、独学でプログラミングを始めました。インターネットの商用化が始まり、個人のウェブサイトが立ち上がり始めた時期。自分はパソコン通信にはまっていました。免疫システムより PC 要素技術 (CPU やメモリ、ディスクなど) やプログラムの動作方法が面白くなり、そちらに寄っていきました。ただし、ずっと免疫システムの応用は引かかっていました。

私は香川大学工学部第一期生 (1998 年) です。高校時代の免疫システム応用は引かかっていて、多数のサーバーをつないで大きな処理に応用できないのかと。オペレーティングシステムや多数のサーバーで構築するクラスターシステムを教えてくださいたい研究室に配属希望。担当教授からは、オペレーティングシステムや情報システムの基盤、クラスター、ネットワークなどを熱心に教えていただきました。卒業後は他大学院へ進学。指導教員の先生が香川大に来る前にいらっしゃった大学。好きなことをやらせてもらえ、その好きなことを今もやっています。

2021 年 4 月に本学に着任時には、指導教員の先生がいらっしゃって、3 年ほど一緒に仕事。今も非常勤としていらっしゃり、一緒に研究しています。

新たな技術を生み出す「研究」は、非常に個人的な活動です。個々の人が「知りたい」と思うことを突き詰めて新技術へと昇華させます。ところが、たった一人で進めていくと、殆どの場合で行き詰まります。そうして先が見えなくなったときには「仲間」がとても大事です。仲間と意見を出し合い、喧々諤々の議論をしつつお互いに励ましあって研究を進めて、少しでも良い技術を作り上げて、社会へ貢献していく。そのような、集まった仲間たちと「切磋琢磨」して新たな技術を創造していく「研究室」でありたいと願っています。

情報コース 准教授

亀井 仁志

かめいひとし

2004/4~2021/3

株式会社日立製作所研究開発グループ

2016/4~2017/3

東北大学大学院工学研究科博士課程後期3年の課程

2021/4~

香川大学へ



教員紹介



研究室紹介1



研究室紹介2



今も続ける研究のきっかけはディスクがいっぱいになって動かなくなったこと。隣にあるPCのディスクを使えば問題ないという経験から、ネットワークでディスクを融通するという多数のPCをつなぐ研究を始めました。今では一般的な考え方ですが、当時はサーバーのディスクをクライアントが使うという考え方が一般的だったので、画期的と思っています。学生時代の研究は、情報ストレージシステムやデータプラットフォームという分野の一部だったので、今も続いています。幸運なことだと感じています。

Informatics